

松待懐史

松待懐史  
久松

丑

13  
3245  
4上



門へ13  
號 3245  
卷 4

風味

あしあそ

信



初松笑

昭和十年九月九日

源情史秋と草卷之五上

東都

曲亭馬琴編次

兼

源情史秋と草卷之五上

第九

撫子小

かみ草

起るて主の像見の姫君か。うた名もるも推く其の皆の山家か。ひ  
せれちゆみ。直由ら強の庫の中久松と行るやん。阿也女か声く密  
語を是非八も同偏く。と耳を側く竊同く。且く阿也女  
かひんやう。縁取と目今ひつる。ひん。とありんか。不茂の  
敵手と名告く。大晦日の婚姻を妨てふふりよ。跡の野とる山迹  
家の。家と汚せど身は汚さ。女兒か漆か幼少と。別まく後の往  
方志はぬ結髪の方の為小。さる若節も久松か。一つよあるるれべし。

この性の信の。そのころよりいふありて憑きすえんりのとなり。家の小  
 断に色情ありぬ。色情の汲川をさる母が。胸苦しう紙猜して之。深  
 へさうと丹五兵衛との由久松と納得せが。それより幸のありは。  
 と意ぬまらうと申す。彼を非ハつとるめげふ。忠義めりう主の  
 背よりんと針岐奸曲邪智。それよりぬこころなるなど。彼は疎く  
 便より本由附と草あゆむ。及び中由も気色よんせ。かみ火  
 彼は曉りしと。理より言詰久松と呆く意もどろし。か  
 中よ改を擡。自の羞を雪めうと。野の金りく救ひひし。再世の  
 恩あり主人脱たぬ難を脱れん為に。救もめぬ小断ふらう。  
 掌合さぬう。宣人をう。固辞ゆ。覚期のく。儒衣  
 へ乾ぬとて。背君の又の清よりれば。秋捨る命と。く。いと

惜と。心ひゆと。思ふれども。月ある。三人の親あり。いんけら。た。棄  
 ら。実の父母と世あり。や。その名もあ。ぬ火の筑紫の  
 人。叔郷。去年の冬。養父。伊。河内の野崎へ。入  
 る。親は異。あり。か。難。や。人。別。後。言  
 耗。父。先。途。を。見。不。後。縁。家。公。の。恩。を。票。て  
 恩。を。報。ひ。十。六。年。を。一。期。の。夢。春。も。あ。埋。本。の。埋。名。の。止  
 いく。さ。あ。び。て。意。迷。ん。父。文。作。か。世。の。風。声。を。葉。よ。う。  
 う。年。の。尾。小。嶺。岐。る。金。毘。羅。へ。代。集。小。旅。を。や。も。さ。か。く。も。ひ  
 う。う。く。正。月。を。過。し。あ。む。か。新。由。春。の。日。の。長。き。別。ま。る。告。ぐ。も  
 め。れ。老。え。ら。う。も。よ。う。と。り。年。向。の。水。も。逆。ま。よ。跡。吊。ぶ。親。乃  
 悲。傷。を。以。ひ。中。と。胸。苦。し。と。意。も。あ。む。さ。う。備。く。膝。は。淚。の。露

の命を思ふべき惜気多し。言の信よりとて。阿也女由暇か  
 拭ひその夜を明けられたるものぞ。親子三人が幸あり。山家  
 親平が公がま極くとも。婚姻せし妻ありぬ。深か密夫多れか  
 とく。破申殺し申の事。さかふらひのひと。その一人を親平又  
 殺す。可愛き女児の命助る。うらめしき。若しはりの筆の跡一  
 且誓ひし婚縁をいひ延る。まの詐術よ。お深あり。そのころ。世  
 の弱車あつ絶く。仇ど生ごりり。淫是。うらめしき。是ぬ忠臣貞  
 女と人小賞美さし。美なる女児と小厮を寛く。淫奪りのといひ  
 いら。親の周業か子に報ひ。縁は。繁は。主役と。のり  
 薄命。前世的仇人。うらめしき。聚ひぬ。おひ。啼め。嗚呼。面ほ  
 と。び。ら。猿啼。ぬ。申の。時。冬。の。横。日。の。短。く。も。庫。の。窓。へ。ぞ

ごと入る。その外は長居せ。人よ。あ。ま。疑。是。る。と。い。ひ。諭。し  
 つ。ま。あ。か。阿也女。か。後。は。久。松。も。出。る。門。口。は。ゆ。の。音。笑。り。け。り。是  
 非。ハ。忙。忙。退。き。中。庭。う。る。小。う。れ。縁。は。手。紙。又。さ。さ。り。の。あ。ひ  
 主。か。主。る。れ。が。女。房。さ。え。ん。は。施。や。か。骨。折。ら。し。て。久。松。よ。う。れ。を  
 さ。さ。る。の。腹。う。ら。し。君。臣。を。さ。さ。る。と。は。塵。芥。の。ぶ。く。ま。ら。ば。臣。后。を。視。る  
 二。雙。言。敵。の。ど。し。と。や。ん。い。へ。ら。を。さ。さ。り。坊。主。を。憎。め。が。衣。着。ま。ぐ。憎  
 ま。久。松。か。賢。が。母。の。白。髪。眼。よ。も。え。ま。堪。む。の。返。報。を。せ。せ。女。の  
 あり。謀。よ。う。く。謀。と。行。ん。あ。い。の。う。二。る。志。を。示。せ。と。その。公。成。校  
 子。彼。生。女。児。と。生。少。年。が。浮。名。を。唄。し。親。平。は。向。火。を。燃。す。  
 ち。か。久。松。を。殺。す。と。その。騒。ぎ。は。紛。乱。と。思。ふ。君。と。う。い。ま。さ。ひ。く。ま。さ。し。  
 ち。か。と。と。肚。裏。さ。ぐ。術。を。究。め。却。も。怒。り。つ。飲。び。ら。その。夜。密。り

人をくさるる。お深久松が名をまて。歌祭文を作らしめ。天満の母とるる。二人の悪棍は金をまてて文を結び。その夜お深を奪ひ去ると其の翼とて。件の悪棍も。曩は法隆寺の門前。みく。丹五兵衛は打仆され。太郎犬二郎犬も。そのあどむ。近曾浪華へ流され。半狭半賊とるると。是非八か主ありといふ。山迹家丹五兵衛と。怒める人うまて。いふひゆうけねど。残と見え。首の落ると。忘る。癖者るれば。振く。憑まて。既は暗号と定め。る。行は丹五兵衛も。山家税平を阻む。謀る。りし。是非八か奸智の長。久松が老実る。是非彼二つ。あひ用ひく。やが阿也女。久松を相彈し。お深あゆく。を知らる。近隣も。その気さを。是非為よ。お深といと花

身小装の。久松を冊。そのひ生玉へ。遺し。大歳ふる。今宵寝の。お深も日の。お深を。御天の神社へ。糸緒。いそが。お深も。今茲十五。舎る。濃や。春の。旭は。向か。お深も。その年。由。一。十六。い。月。の。雲。と。出。秋の。文。を。照。り。と。似。たり。女子。の。長。き。袂。と。裾。は。い。ろ。く。の。摺。り。練。の。帽子。の。匂。中。る。帯。の。き。り。ど。も。花。は。ぬ。ど。性。氣。の。入。由。久。る。る。べ。い。その。流。石。は。高。家。は。仕。く。衣。と。被。ね。ど。雪。止。り。た。容。止。り。と。臍。蘭。て。賤。し。と。被。東。路。は。さ。ひ。ひ。ひ。在。五。中。將。と。い。らん。も。憎。く。ぬ。顔。顔。ま。ま。は。紋。深。の。帛。紗。包。を。携。る。腕。の。撓。げ。る。紙。寫。を。引。け。る。梅。の。梢。は。異。な。り。



久松

久松を  
お深松の  
神社へ詣り

久松を  
お深松の  
神社へ詣り



霞そのあし一年の内よ春とくろ名の浅す。と歎く二人が心也。可  
 惜黄金を尾町へかればうへ字とて尾橋とも呼ぶるらん。昔  
 いのまご傾ねど。西へくと洞町よりくる人が指しと。めんや名よる。  
 淫奔女児お深き。山家と申らん。お布を撫ふといふ由理るる。  
 び。廣き浪速よ憐るる久松とらふ小厨を被る。さても愛うた  
 が年うま。とあるもあふぬ由立在る。声憚らど呼びとらふ。恋せぬ  
 んよゆらるんば。くろ浮名のまらんと見えたるお深と久松と。面を  
 ありて嘆息し。稍瞻望る東町。春のささく梅押由。住進の内  
 ろる。八咫の社改よ系統の老弱をまえんと。靴よ声の草紙よ。こ  
 頼杖街と嗚呼がましく。  
 ば。い。れ。く。ん。ぜ。今。茲。の。室。の。梅。さ。ら。も。拵。り。て。散。由。せ。と。包。む。る。の。

香のりりり。發と世よとろ名ふ高き。所々浪華東涯。や  
 鬼門の角屋鋪。尾町より油賣る。恋の山迹家愛女がそめえ  
 とめく。暮りみち。秋のころより物多し。さひ。雜類の久松と。そのびく  
 小私めが。秋。夢。よ。由。秋。ま。ま。と。あ。う。う。う。ぬ。縁。の。え。の。の。か。と。魚。の。油。よ  
 水よ。と。壻。よ。絶。く。あ。ら。う。そ。の。の。と。ん。さ。ま。ん。れ。か。積。の。種。菜。種。の  
 めが。蝶。く。の。翅。よ。な。て。り。え。と。も。よ。死。ん。と。お。ひ。め。り。る。迷。を。い。を。哀。る。る。  
 とく。返。し。つ。唄。ひ。り。久。松。ゆ。く。よ。堪。難。く。お。深。か。袖。を。そ。と。り。て。見。あ。い  
 と。面。の。赧。う。ら。う。る。是。由。彼。は。非。ハ。か。他。ア。と。や。唄。と。ん。腹。ま。さ。る。り。と。恨  
 ても。恨。ん。う。ら。う。ら。う。く。新。護。さ。の。油。垢。脊。よ。汗。の。冷。灰。汁。の。その。悪。名  
 を。濯。ぬ。ぬ。き。情。る。ら。う。く。小。主。従。か。色。情。よ。浮。名。を。唄。う。ご。ま。も。過。世  
 の。業。報。る。らん。歎。め。入。る。歎。ぐ。と。互。よ。練。め。練。め。清。き。心。を。神。を。る。

新編海防新報

五

室前よあぢり額著く。まぐ家路へよりぬか。志と負くハハとど。成  
 へつがまうりつ。携せよその名をこめり。○人足繁る大歳の一を  
 千代と祝へども。身の憂るん越く後。さそ山迹家丹五兵衛ハ。督税  
 平かあまひるれど。婚姻の儲ゆりせむ。却り炬燵は假寐の夢おどろ  
 うと。撞の声。黄昏ハ殊さう。油買人迹絶る。大ぶりり。つりぐらう。  
 上と下へとく。席薦の表彩玉の春を迎。年徳の棚は晃く  
 燈火も花とく。梅椿水仙もぞ。福壽艸ゆゆめ。めされ。めされよ。  
 と。咄声高き。洋樹賣が。枳似。ぐら。鬘の霜。二重の腰。ハ八重梅と。  
 乙卯。雪の根の。松。歳暮。年。一。荷。擔。人。冬。木。と。春。の。花。曆。吉  
 例。壽。代。の。へ。と。く。店。前。近。く。吸。び。つ。末。ぬ。阿。也。女。ハ。裁。樹。商。人。が。咄。声  
 笑。く。の。そ。い。げ。が。ま。り。久。松。よ。い。か。う。公。と。ま。ぬ。婿。入。る。ふ。年。の

尾の徑。雪よ粉まき。島臺。一。准。後。ゆ。せ。む。蓬。萊。ゆ。や。ぶ。飾。け。ね。む。  
 障の樹。み。物。と。め。ハ。見。所。あ。げ。は。店。前。を。便。り。背。門。口。より。吸。び  
 入。ま。り。ぞ。く。の。つ。か。と。あ。ぢ。久。松。を。皮。ゆ。あ。ぢ。と。呼。ぶ。と。振。れ。や。せ。む。  
 脚。門。と。押。開。き。綉。さ。ま。え。と。い。同。よ。ま。商。人。の。擔。が。や。り。入。鞆。の。洋。の。樹。を  
 扛。入。ま。り。縁。の。下。より。ち。あ。ろ。ろ。と。松。と。梅。と。左。右。に。掘。例。年。の。吉。祥  
 ハ。子。孫。繁。昌。の。花。の。兄。冬。籠。ま。浪。速。津。ゆ。今。宵。一。夜。ハ。明。き。め。て。  
 子。の。日。の。姫。松。陰。陽。和。合。松。と。い。く。ば。ろ。ろ。う。り。れ。孰。と。め。さ。ろ。と。い。し。声  
 似。し。う。と。久。松。を。指。燭。と。縁。より。さ。抗。ま。ば。老。眼。る。れ。ど。見。ゆ。違。へ。ど。  
 孩。見。る。ま。ど。や。家。さ。の。大。人。恙。る。く。坐。せ。杖。を。く。ま。り。ま。り。ま。り。な。り  
 り。と。い。ひ。つ。撲。地。と。さ。り。落。と。梅。と。め。の。久。松。も。走。り。よ。り。つ。つ。母。を  
 そ。く。涙。さ。れ。ぞ。親。と。子。が。同。べ。れ。る。ゆ。は。泣。む。り。喜。し。と。袖。の。め。ま。り。り。



のヤめ ありさま 阿也女々るの形勢よ。さそり。と猜して障子川岡。場迎く。お久松と  
 うら膳り。久松と孩児とゆが。豫しもその名をさす。野崎の久松と  
 るんい。ゆる秋河内へ信さし。おん牙が往方へ絶く。志まむ。親  
 と暮入孝子の歎き。さそり。痛しく。環會中。ゆるる。お久松と  
 とうとぶる。対面へ。戒まれ。丹五兵衛。お久松と。さそり。飲びぬ。お久松と。  
 不心残る。縁し。お久松と。使ふ。その物。さそり。長。お久松と。  
 裳を。お久松と。火桶の。お久松と。居。お久松と。お久松と。お久松と。  
 他々淡深の。お久松と。腰を。お久松と。内室。お久松と。お久松と。  
 せし。お久松と。名告。お久松と。四月の。お久松と。往方。お久松と。  
 菅索。お久松と。京。お久松と。浪速。お久松と。艶治郎。お久松と。お久松と。  
 お久松と。神。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。

るれば。秋の。お久松と。旅宿。お久松と。毎日。お久松と。出高。お久松と。お久松と。  
 鶏家の。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 不圖。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 公。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 手。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 恩。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 高。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 主。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 受。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。  
 久松。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。お久松と。



顔をうら観り。喃々々。鶏家あつてふ人とて。つらむ人らしくも。何  
 ぶと。命と放ひゆり。主の恩とあるや。あつて。や。学んつるや。と。宣ひ  
 ぶと。糸をひき。とひかせゆ。久作も。見の襟上。ふ。纏て。際  
 へ。く。髪と。著つ。声と。あつて。久松。齡六十。より。う。く。も。久  
 他と。老。老。せ。い。ま。あ。つ。と。や。入。主の。令。弱。あ。め。め。と。や。ん。と  
 密會。歌。祭。文。は。他。と。ま。く。油屋の。店。暖。簾。へ。泥。を。塗。る。不。忠。不。愛  
 今夜。婿。の。来。す。と。い。ふ。世の。風。声。よ。ひ。あ。れ。ば。是。も。彼。も。見  
 の。情。素。あ。て。む。い。う。さ。で。小。面。目。の。失。つ。と。ど。く。ハ。ハ。と。度。や。く。悲。し  
 恋。く。朽。く。ほ。つ。素。く。来。る。又。も。さ。ろ。子。奴。の。周。の。梅。あ。る。人。と  
 ろ。姓。氏。素。姓。と。い。ひ。あ。つ。と。な。は。可。愛。さ。結。髪。の。妻。も。あ。れ。ど。時  
 う。海。早。し。と。然。止。り。も。今。ど。い。の。牙。の。仇。と。り。ぬ。松。の。標。の。名。よ。う。て。

久後。あ。と。あ。つ。と。や。登。り。つ。ハ。の。梓。樹。岡。も。あ。り。合。ひ。も。あ。り。早。暎  
 あ。は。か。と。梅。の。お。深。ど。の。合。の。花。は。盗。人。も。う。ら。ひ。松。主。の。女。見。と  
 瑕。瑾。ふ。せ。密。夫。も。れ。首。の。続。ま。ど。身。を。賣。て。も。却。り。の。親。を。救。へ。と  
 の。親。と。あ。り。と。楊。貴。妃。小。町。も。す。ま。い。と。く。色。は。違。ひ。と。身。死。亡。ふ。久。他  
 と。な。れ。う。ま。ん。と。な。ぬ。實。の。二。親。と。高。恩。受。と。主。へ。對。し。孝。を。ん  
 也。思。ふ。ん。や。い。ひ。か。ひ。し。と。齒。を。切。り。擡。り。固。め。拳。の。上。に。震。か  
 ぶ。血。の。涙。滅。り。と。る。教。訓。よ。久。松。の。身。を。伏。す。胸。若。し。た。徳。は。ん  
 阿。也。女。の。え。る。痛。す。く。實。の。不。義。不。あ。り。と。ん。ゆ。ゆ。い。ま。ね。の。寛  
 う。ぬ。く。い。ま。見。と。る。く。け。と。縛。の。や。と。竊。同。ん。お。深。を。あ。つ。と。ま。り。出  
 中。よ。久。松。か。ま。く。久。作。と。ま。ん。凡。庸。の。き。情。と。さ。ら。腹。す。く。れ。も  
 理。ま。ん。と。さ。ま。ふ。の。深。を。情。由。あ。り。と。後。い。ひ。ぬ。く。泣。沈。め。久。他。を

恨しげなほくぐとえうう。標致をうけと。少女は似げるれ公  
 こまの物ね女よすく。生らるもつた果ね。後見は早晚淫奪を教  
 て老らる親中。ふ面もた歎ら紙さしひぬ。まご婚姻は結ぶとも  
 結髪は夫を嫌ひく。化らるる名をさる。親の油断といひるが  
 女由女男も男も揃ひ。う長理もど。今の世の小女鬼とえ生の  
 夕貞もらひさうええ。も熟くめる。その夕貞は宿あり。惟光か母  
 色情の汲引。は奴もく。てた。それをさく。恨も。責ても及ね  
 主なり子なり。今川放せば互の僥倖。久松か。ひ従く。今宵の  
 婚姻。う締び。親の紗紙。体め。う。お。う。ま。け。ひ。迫りく  
 十日寺。足。の。ひ。死。神。お。誘。引。と。深。念。く。滅。の。道。へ。赴。く。か。孝。行。  
 彼霸王樹を商せ。その形。の。似。え。は。と。く。俗。は。位。牌。木。と。緯。号。せ。う。いと

位牌と

惜と。よ。ふ。も。可。愛。と。よ。ふ。も。鼻。く。息。の。め。い。内。の。と。位。牌。と。  
 戒名を。信士。信女。と。書。る。と。く。い。年。は。一。度。の。牛。女。や。雛。あ。り。お。る。奉。  
 空。泡。沫。等。の。朝。茶。湯。親。の。手。づ。り。手。向。る。ま。ご。は。残。り。あ。  
 の。悲。傷。の。情。郎。を。よ。ひ。絶。る。お。ん。身。か。歎。き。よ。い。サ。り。て。ウ。ら。る。と。ん。と。  
 多。ひ。の。か。と。め。く。達。人。と。も。め。く。い。の。教。訓。も。思。高。い。家。は。ま。う。う。親。  
 何。國。の。浦。も。甘。れ。と。母。親。の。後。と。も。よ。泣。く。ゆ。く。い。等。果。と。久。松。が。身。  
 の。暇。を。只。今。と。し。り。く。い。と。い。果。く。か。鬼。の。手。紙。に。ま。る。お。し。ゆ。あ。れ。  
 蒸。襖。を。さ。と。開。け。ゆ。久。他。ち。ち。の。人。と。呼。び。函。る。り。の。い。れ。別。人。は。あ。ん。ん。  
 す。ま。ら。の。丹。五。兵。衛。も。う。棧。留。布。の。袴。の。裾。を。押。ひ。し。り。と。上。坐。り。  
 ぞ。煮。と。坐。し。い。れ。と。と。ま。の。ら。か。條。か。久。松。が。為。あ。ま。主。る。人。と。思。ふ。  
 被。せ。く。名。出。る。あ。の。ね。ど。件。の。小。厨。が。不。義。淫。奪。憎。ま。主。家。を

夢みておぼくおん。とりつゝのいふは、  
 今宵も、  
 誤るゝがりのせん。三十金の身價と引くえらふが久松を國う外  
 面へ一歩も出さず。その金をりて来まうや。唯依やあのと物と結  
 同其く。久松のいふ。とむらうふ當然理ふ迫らまう。勢ひ脱ぐ撲地  
 と坐し。頻又嘆息し。うらる。告知又麿のうらる。とや新郎の来  
 りひぬ。と生ける焚婢小厮か声は丹五兵衛と豫てうら。必ひるよ  
 ととらうごら。驚くまんととる妻の裳を引とめ。騒ぐ気色うら  
 まる。後よ山家税平ハ是非ハ案内さう。縁煩う繞り来り。粘の脱  
 する麻上下也。裾は出。古小袖浅黄の裏も垢染。氣とんも  
 よめこの。背といらん。と他げ。席薦の縁は足踏。わあ。

歩と入り。東面は坐し。うらる。おれども。おれども。久松由伏候  
 する。改を擡む。阿也女ハ眉をうら。頻年め。丹五兵衛ハ手紙又さう。見  
 うら。うら。物いふ。やあ。ぬ。是非ハ。信。小厮。燭臺  
 不灯。是。首彼首。是。當下。平ハ扇。又。丹  
 丹五兵衛。又。婚。を。待。の。志。は。婿  
 翁の好。破。と。枉。仏。不。上。盃。の。准。依。打  
 湿。て。え。後。衣。更。待。大。歳。は。丹  
 嬢。振。婿。の。他。法。あ。ど。う。づ。忙。大。歳。は。丹  
 累。く。と。の。あ。ま。う。又。奥。う。さ。く。盃。と。の。あ。め。け。丹  
 五兵衛。と。一。且。諾。ひ。と。る。女。見。が。婚。姻。の。あ。ま。う。推。辞。と。の。

今宵脱る言詰り。但胸苦死の一條の物りあり。我が口づ  
くつらん。羞を志しむる小似れども。いふせん。はなや密夫ありて既  
小有牙ぬらりの近曾外より。驚れぬとて。破漬の面を  
照より。ほ公汚する女子の疎く。男姑の面の觀る。彼を  
牙の暇をぬれせ。お條をまねく。ゆのれ。干て誓言の食む。殺  
る。ねども。肆を進。とれば。浩業を相統し。といひせ。果  
税平へ。顔赤や。筋よ。眉尻。と。ま。声。激。え。朽。を。  
を。く。りの。の。肆。を。所。と。い。澄。書。の。し。の。み。  
彼此の巷。又。唄。歌。祭。文。と。久。松。が。の。と。あ。い。の。目。取。房。と。俱。  
せ。と。も。結。髪。で。女子。を。小。斬。る。と。奪。れ。る。刀。も。あり。て。う。ひ。り。  
件。の。久。松。と。這。奴。が。り。飲。く。出。よ。淫。婦。奸。夫。を。押。る。首。を。ち。落。し。  
勝を吟んと。出と。と。死。ま。れ。刀。の。鞘。を。手。放。く。と。非。ハ。と。  
そ。ろ。ろ。の。花。う。ろ。久。松。が。改。髻。を。と。と。と。個。を。引。と。と。  
外。を。引。よ。せ。と。久。作。が。つ。と。出。推。隔。と。妨。と。罵。り。と。裳。を  
翻。と。破。と。蹴。る。脚。首。投。と。捨。挫。と。助。斗。と。う。り。と。振。搏。と。非。ハ。と  
跳。と。と。税。平。が。投。り。る。又。の。下。久。松。を。推。る。ゆ。り。と。項。を。伸。へ。名。告  
ま。う。と。も。嗚。呼。る。ん。が。お。條。ど。の。不。美。の。款。平。久。松。が。野。崎。乃  
久。松。の。見。の。代。よ。白。次。を。懸。と。と。と。壻。の。敵。と。一。刀。又。懸。の。人。と  
と。が。手。お。控。と。お。と。毛。お。臆。ま。と。と。久。松。を。慌。忙。と。又。を。退  
親。を。殺。と。と。阿。容。と。と。命。を。助。け。ら。え。と。め。り。と。と。死。所。行。を  
見。や。代。ら。ん。と。實。入。と。世。に。形。と。と。海。と。と。飲。死。と。と。後。又。久。松。が。手  
より。の。曉。る。ぬ。め。先。と。不。孝。と。許。し。と。い。ひ。と。と。候。押。拭。の。公

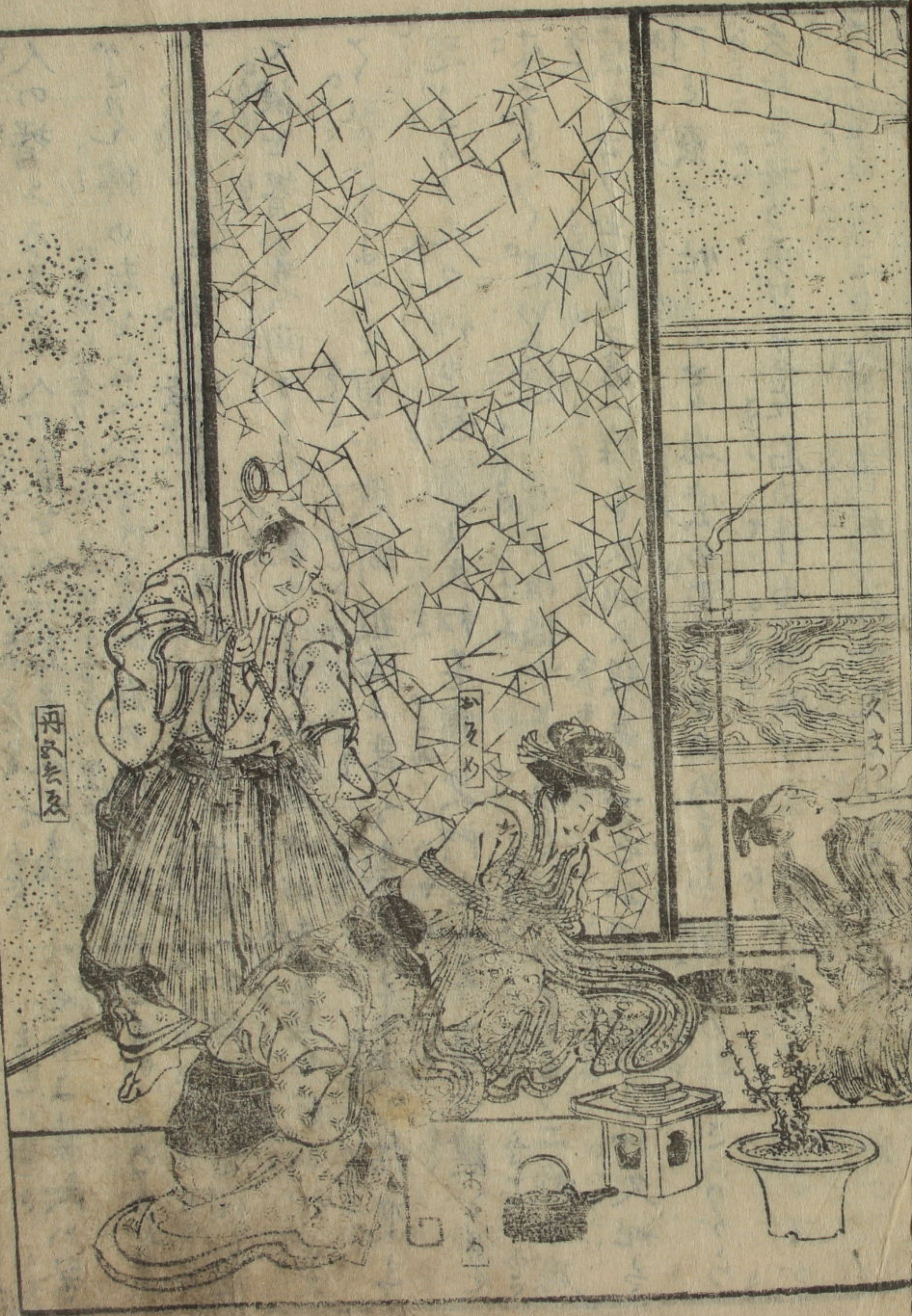
今宵脱る言詰り。但胸苦死の一條の物りあり。我が口づ  
くつらん。羞を志しむる小似れども。いふせん。はなや密夫ありて既  
小有牙ぬらりの近曾外より。驚れぬとて。破漬の面を  
照より。ほ公汚する女子の疎く。男姑の面の觀る。彼を  
牙の暇をぬれせ。お條をまねく。ゆのれ。干て誓言の食む。殺  
る。ねども。肆を進。とれば。浩業を相統し。といひせ。果  
税平へ。顔赤や。筋よ。眉尻。と。ま。声。激。え。朽。を。  
を。く。りの。の。肆。を。所。と。い。澄。書。の。し。の。み。  
彼此の巷。又。唄。歌。祭。文。と。久。松。が。の。と。あ。い。の。目。取。房。と。俱。  
せ。と。も。結。髪。で。女子。を。小。斬。る。と。奪。れ。る。刀。も。あり。て。う。ひ。り。  
件。の。久。松。と。這。奴。が。り。飲。く。出。よ。淫。婦。奸。夫。を。押。る。首。を。ち。落。し。  
勝を吟んと。出と。と。死。ま。れ。刀。の。鞘。を。手。放。く。と。非。ハ。と。  
そ。ろ。ろ。の。花。う。ろ。久。松。が。改。髻。を。と。と。と。個。を。引。と。と。  
外。を。引。よ。せ。と。久。作。が。つ。と。出。推。隔。と。妨。と。罵。り。と。裳。を  
翻。と。破。と。蹴。る。脚。首。投。と。捨。挫。と。助。斗。と。う。り。と。振。搏。と。非。ハ。と  
跳。と。と。税。平。が。投。り。る。又。の。下。久。松。を。推。る。ゆ。り。と。項。を。伸。へ。名。告  
ま。う。と。も。嗚。呼。る。ん。が。お。條。ど。の。不。美。の。款。平。久。松。が。野。崎。乃  
久。松。の。見。の。代。よ。白。次。を。懸。と。と。と。壻。の。敵。と。一。刀。又。懸。の。人。と  
と。が。手。お。控。と。お。と。毛。お。臆。ま。と。と。久。松。を。慌。忙。と。又。を。退  
親。を。殺。と。と。阿。容。と。と。命。を。助。け。ら。え。と。め。り。と。と。死。所。行。を  
見。や。代。ら。ん。と。實。入。と。世。に。形。と。と。海。と。と。飲。死。と。と。後。又。久。松。が。手  
より。の。曉。る。ぬ。め。先。と。不。孝。と。許。し。と。い。ひ。と。と。候。押。拭。の。公

公孫清也入心之五

のち又の下へる海の子を引退く。其不覚より死んいる久  
 松が親と子が恩義の為死を辞せど。最期を平入形勢に  
 平の抜く。又をいふと。呵々と冷笑ひて。練る。其らと。憎  
 と。小厮が牙をうり。白改とて。行くせん。是非ハと。油断  
 久松と。その逃し。といひ。論せば。是非ハ。うら。びか。を。久松が。胸  
 圓る。眼を睜く。と。その生白げる。え。其の。秋。の  
 新。前。髪。の。年。は。似。ける。老。管。口。を。開。く。其。の。主。の  
 氣。よ。あ。る。れ。ば。と。い。ぬ。小。驕。慢。り。盗。む。り。の。決。然。と。内。外  
 の。人。の。暗。を。盗。む。結。髪。の。髻。の。思。毒。あ。る。親。方。の。女。見。を。盗。む  
 が。痛。け。と。主。の。面。は。親。く。あ。る。皇。天。と。許。す。

人をりり。其。過。流。の。糸。文。縦。石。仏。は。其。夫。の。妻  
 敵。を。撃。つ。七。の。罪。九。り。く。る。い。は。其。の。脊。の。殿。が。と。ち。り。今  
 生。の。眼。を。さ。じ。ひ。ぬ。と。お。の。が。詐。術。の。疎。ろ。く。席。の。威。を。借。る。毛。爪  
 切。り。穴。と。い。え。え。さ。う。ね。税。平。の。是。非。ハ。向。火。と。焼。つ。け。は。焼。る。葉。は  
 油。を。洗。ぐ。烈。し。き。怒。り。は。些。由。擬。後。せ。ど。肩。衣。の。前。は。除。く。袴。の。絞  
 と。結。と。揚。げ。て。二。人。の。う。り。押。累。く。四。段。は。あ。る。え。い。ひ。由。あ。る。と。さ。り  
 け。り。泣。沈。む。か。涙。が。黒。髪。引。廻。め。吐。嗟。と。お。と。後。く。母。阿。也。女。が。言  
 悪。も。う。ら。む。携。笛。を。突。退。く。多。る。壯。夫。よ。力。あ。る。が。根。柵。人。妻。を。さ。え  
 う。後。く。丹。五。兵。衛。と。税。平。を。推。退。て。女。見。や。ら。後。方。は。嗟。れ。い。は  
 び。や。う。の。海。と。小。厮。が。不。義。發。覺。て。其。の。罪。絶。く。腹。を。ぐ。り。む。む。い。は  
 ども。國。よ。王。法。の。家。は。家。則。あり。山。家。の。原。武。士。な。り。と。も。今。

本朝書紀卷之五



母の姿

女

久松

十五



苦肉の計  
信濃軒夫を  
いぢめ

久松

山家

七十八

十五



人の婿ふるり商人の家を継がば商人之商人より私よ妻敵の譽  
 がらん緯の越と公へ松中じ室町殿の仰と稟と。そののちのち  
 べし時より申すの比及るん致今宵一夜の土藏へお深久松を因龍  
 て捷と婿より関るとたの親よりぬ筑中の鳥の劍羽がとえ  
 く。譽よりよやと胃が截断彼木よ年を越るとも國の法度と  
 越ごらん久松の親がよ久松を縛り阿也女と庫の捷と  
 来よりく。といふに立譲て准枝やと久松のうらや二條の麻  
 索とより出るとその一條を久松に投与へお深と縛り久松と  
 阿と癒つ忙くする麻索のちとぬのちが賜りの裁とつら  
 久松と捨つあげると左右の半由痛ぬやうかと結びめのちり合せが  
 の書繪も又その書場さぬ親と親と公の内庫一夜の

引い去あり果敢たせりりり

松  
 枝  
 久松

